

# Move Forward

2020年度の代表的な取り組み

# Store

NINJA  
ビジネスプラン  
コンテストへの応募社数

アフリカ19カ国  
2,713社

## コロナ禍における起業家支援

### 革新的なチャレンジを後押し Project NINJA (Next Innovation with Japan)

コロナ禍によってもたらされたニューノーマルに対応した、革新的なビジネスモデルやテクノロジーを生み出すスタートアップ支援のため、JICAはアフリカ19カ国を対象にビジネスプランコンテストを実施しました。応募総数2,713社から選ばれた10社による決勝戦を2021年2月、オンラインで開催。優秀企業には、日本企業とのマッチング機会や技術支援などが提供されます。

南アフリカ共和国の企業(And Africa)による、人を介さない荷物の発送・受取りが24時間可能なIoTロッカーの開発には、今後の事業連携も見据えて、日本企業4社から特別賞が提供された

# 人にも環境にも優しい「質の高いインフラ」の整備

デリーメトロの  
1日の平均利用者数<sup>※1</sup>  
(2019年)

506万人

デリーメトロの  
総延長<sup>※2</sup>  
(2021年8月時点での開業済み区間)

約390km

## 渋滞を緩和し、市民の足として定着 デリー高速輸送システム(デリーメトロ)建設事業

JICAは長年、インドの首都デリーにおける地下鉄と高架鉄道から成る高速輸送システム(デリーメトロ)建設プロジェクトを円借款で支援しています。デリー首都圏を広くカバーする鉄道網には、日本企業の技術や製品も導入されています。女性専用車両や優先座席の設置などにも積極的に取り組むほか、温室効果ガスの排出削減にも貢献しているデリーメトロに対し、今後も協力を続けていきます。

快適で定時運行のサービスを提供することで、デリー市民の生活を大きく変えたデリーメトロ。運行ノウハウや乗客の整列乗車など、ソフト面での日本の知見も生かされている【写真：船尾 修】

(注)デリーメトロに関するデータの出所はDelhi Metro Rail Corporation Ltd.

※1 各路線利用者の合計。 ※2 JICA事業によって完工済みおよび建設中の区間は約257km。

## 世界的文化遺産の保護

### 敬意と誇りを持って修復技術を伝授 大エジプト博物館合同保存修復プロジェクトほか

単一文明を扱う博物館としては世界最大となる「大エジプト博物館(GEM)」。  
JICAは建設への資金協力に加え、2008年から専門家派遣や研修員受入を通して  
歴史的文化遺産の修復士の育成を支援してきました。その後、両国の専門家が共  
にツタンカーメン墓出土品などの重要遺物を保存修復するプロジェクトも開始。  
これらの協力が評価され、2020年11月、「読売国際協力賞」を受賞しています。

事業で実施した  
研修への参加人数  
(2008年6月-2021年3月)

約**2,250**名

GEM保存修復センターでの修  
復作業。高解像度デジタル顕微  
鏡を用いた非破壊診断分析は、  
保存状態の把握だけでなく、新  
しい考古学的知識を得る研究に  
も貢献している

## “今できること”を 続けて

### コロナ禍の一時帰国隊員たち

2020年、世界規模での新型コロナウイルス感染拡大で一時帰国を余儀なくされたJICA海外協力隊員たち。帰国後、任国に向け、遠隔指導や動画教材の制作・配信などをする隊員、留学生の生活支援やオンライン母子保健相談など、日本の国内で活動を始める隊員——それぞれが海外と国内の人々のために、今できることを続けました。

モザンビーク・養蜂隊員。国内で農作業を手伝いながら、任国との懸け橋になるような店舗を構想中。集中豪雨により被災した農家の復旧作業にもボランティアとして参加した

## 一時帰国隊員の社会貢献

国内の課題解決に  
取り組んだ隊員  
(2020年度の延べ人数)

1,564名

任国に向けた活動に  
取り組んだ隊員  
(2020年度の延べ人数)

963名

モルディブ・体育隊員。モルディブに向けた日本文化紹介や体操動画の作成・発信のほか、人手不足の長野県の農家で収穫作業に従事